

昭和57年度アカガイ天然採苗調査

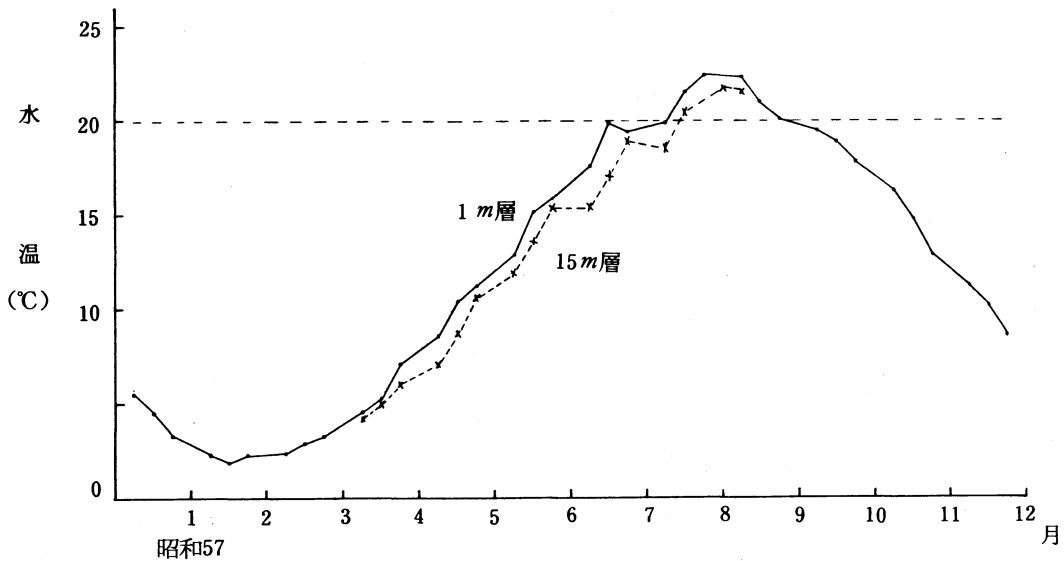
川村 要・宝多 森夫・奈良八三郎・白取竹次郎・吹越 弘光

母貝成熟状況調査

芦崎湾の水深4.3mに放流した満5年貝について、6月上旬から9月上旬まで肉眼で成熟状況を観察した。それによると、水深4mにおける本年度の産卵時期は7月中旬から8月上旬であると思われた(第1表)。また川内における本年度の水温変化を第1図に示したが、アカガイの産卵は現場水温がおおよそ20℃に達した頃におこなわれることがわかる。

第1表 母貝の成熟状況(生殖巣肥厚個体の割合をパーセントで表わした)

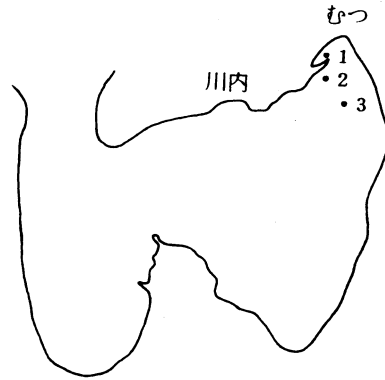
57. 6月上	6月中	6月下	7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上
60%	57%	70%	78%	100%	100%	100%	13%	10%	0%



第1図 本年の水温(川内ブイ)

浮遊幼生調査

浮遊幼生調査は第2図に示した3地点で実施したが、幼生の出現状況は第2表に示したとおりであり、採水量1トン当たり最高でも9月17日のst. 2における3個と、5年連続の採苗不良が予想された。本調査に出現した幼生は、その成長段階からみて8月に産卵したものと考えられ、付着時期は9月中旬から下旬であろう。



第2図 浮遊幼生調査地点

第2表 浮遊幼生出現状況

調査月日	調査地点	水深 (m)	水温 (°C)	採水量 (ℓ)	浮遊幼生の出現状況	
					個体数	殻長(μ)
57. 8.24	1	5	23.3	300	0 個	
	2	5	23.1	300	0	
		10	23.0	300	0	
57. 9. 7	1	5	22.3	800	0	
	2	5	22.1	300	0	
		10	22.0	300	0	
57. 9.17	1	5	20.7	600	0	
	2	5	20.8	300	1	245
		10	20.7	300	1	240
	3	5	20.7	300	0	
10		20.7	300	0		
		20	20.6	300	0	
57. 9.29	1	5	19.2	700	0	
	2	5	19.7	200	0	
		10	19.6	200	0	
	3	5	19.5	200	0	
		10	19.6	200	0	
20		19.7	200	0		

付着稚貝調査

付着稚貝調査は第3図に示した4地点で8月下旬に採苗器を投入して実施し、それらへの稚貝の付着状況については昭和58年2月22日に調査した(第3表)。稚貝の付着数は最高でも採苗器1袋当たり5個と少なかった。

稚貝の成長については、昭和58年2月22日で0.6~2.3cmであり平年並みであった。



第3図 付着稚貝調査地点

第3表 採苗器1袋当たりの稚貝付着状況(3~5袋平均)

調査地点 投入水深	1	2	3	4
1m	0	——	——	——
2m	—	0.4個 (1.2~1.3cm)	——	——
4m	0	——	——	——
5m	—	0.6個 (0.9~1.8cm)	——	——
10m	—	0.6個 (0.7~1.2cm)	1.0個 (1.0~2.3cm)	0.7個 (0.8~1.5cm)
15m	—	——	4.0個 (0.7~2.1cm)	1.7個 (0.9~1.5cm)
20m	—	——	3.0個 (0.6~1.7cm)	1.3個 (0.7~1.3cm)

(参 考)

八戸湾内で昭和56年11月にサルボウ2個体、昭和57年8月にアカガイ1個体が採捕された。このことは、防波堤の建設で砂から泥へと底質が変化するにつれ、これらの種の生息が可能になったものであり、その間に人為的添加がない限り、陸奥湾あるいはその他の場所で発生した浮遊幼生が着底した可能性が極めて強い。

アカガイ 殻長5.6cm 全重量33g (障害輪殻長4.4cm)